



2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東
 コード番号 3981 URL https://www.beaglee.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 三吉 達治 (TEL) 03-6706-4000
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年12月期第1四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第1四半期	4,675	0.0	369	△32.3	355	△30.6	168	△33.6
2022年12月期第1四半期	4,673	5.7	546	26.4	512	29.8	254	22.9

(注) 包括利益 2023年12月期第1四半期 168百万円(△33.6%) 2022年12月期第1四半期 254百万円(22.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第1四半期	28.13	27.96
2022年12月期第1四半期	42.63	42.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第1四半期	17,789	6,412	36.0
2022年12月期	19,039	6,314	33.2

(参考) 自己資本 2023年12月期第1四半期 6,412百万円 2022年12月期 6,314百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2023年12月期	—	—	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本方針としております。

3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,499	2.0	850	△17.0	822	△14.4	406	△3.3	68.11
通期	19,622	4.9	1,822	3.8	1,766	9.8	900	35.4	150.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P8「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期1Q	6,237,142株	2022年12月期	6,236,342株
2023年12月期1Q	238,985株	2022年12月期	238,985株
2023年12月期1Q	5,997,525株	2022年12月期1Q	5,959,294株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、感染症対策と経済活動の両立により、社会経済活動の正常化が進みつつあります。一方で、不安定な円相場やインフレによる経済停滞が懸念され、依然として不透明な事業環境が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、紙の出版市場が縮小している一方で、電子出版市場は継続的に拡大しており、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2022」によると、2023年度の成長率は9%程度になると予測されており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されております。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては、電子コミック配信サービス「まんが王国」のブランド構築に注力しつつ効率的な投資を、コンテンツセグメントにおいては継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

さらに、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化や成長加速のため、2021年11月に資本業務提携契約を締結した日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」という。）との協業案件を継続的に推進いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,675,443千円（前年同期比0.0%増）、営業利益は369,694千円（前年同期比32.3%減）、経常利益は355,921千円（前年同期比30.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は168,684千円（前年同期比33.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスである「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お徳感を訴求するキャンペーンや幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。

さらに、原作付きのコミカライズ作品や異世界ファンタジー等の人気ジャンル作品の創出に注力し、“ここから読める”作品の創出に注力いたしました。

この結果「まんが王国」は、お徳感No.1（2023年4月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお徳に感じるサービス第1位を獲得。）のコミック配信サービスとして、2022年12月に累計ダウンロード数が19億冊を突破、2023年4月に会員登録者数が750万人を突破いたしました。

小説投稿サービス「ノベルパ」においては、投稿作品を原作としたコミカライズ・メディアミックス展開を推進するため、アプリ利用者数並びに投稿作品数の増加を目的とした施策の実施や小説コンテストを開催いたしました。

また、日本テレビとの取り組みにおいては、漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」発のコミカライズ作品「ようこそ！パラダイス劇場へ」の連載を開始し、「まんが王国」にて独占先行配信いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は3,091,843千円（前年同期比0.4%増）、営業利益は106,912千円（前年同期比54.3%減）となりました。

(コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、収益性の高いデジタルコンテンツが引き続き高成長を維持し、好調な業績を牽引しております。

2021年に創刊したデジタルコミック誌「PRIMOプリモ」「COMICヤミツキ」や、2020年に創刊したBLレーベル「&Emo.」のコミックスが堅調に推移し、売上の増加に寄与いたしました。2023年4月にはデジタルコミック誌「comic Killla」を新たに創刊する等、読者の嗜好性に合わせたコンテンツの創出とジャンルの拡大を推進いたしました。また、BLコミック誌「GUSH」が20周年を迎えたことを期に、コラボカフェの開催といった様々な施策を実行いたしました。

さらに、異世界&令嬢作品に特化した、女性向けライトノベルのコミカライズレーベル「BKコミックスf」では「ノベルパ」と共同で「第2回BKコミックスf令嬢小説コンテスト」を開催する等、セグメント間の連携を強化するとともに、レーベルの特徴を活かした作品の創出に注力いたしました。

このほか、ぶんか社の人気グルメ漫画「半熟ファミリア 腹ペコ兄弟の熟成レシピ」が日本テレビホールディングス株式会社の子会社である株式会社日テレ アックスオン制作にてテレビドラマ化され、放送を開始いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は1,617,988千円（前年同期比1.2%減）、営業利益は262,748千円（前年同期比15.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は17,789,830千円となり、前連結会計年度末に比べ1,250,101千円減少しました。

流動資産は7,773,342千円となり、前連結会計年度末と比べ1,034,414千円減少しました。これは主に、現金及び預金が568,650千円、売掛金が356,973千円、未収還付法人税等が105,588千円減少したことによるものです。

固定資産は10,016,488千円となり、前連結会計年度末と比べ215,686千円減少しました。これは主に、無形固定資産が214,504千円減少したことによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は11,377,781千円となり、前連結会計年度末に比べ1,347,458千円減少しました。

流動負債は7,597,755千円となり、前連結会計年度末に比べ1,078,848千円減少しました。これは主に、預り金が51,976千円増加した一方で、支払手形及び買掛金が442,675千円、未払金が98,049千円、未払法人税等が287,427千円、未払消費税等が65,991千円、返金負債が167,049千円減少したことによるものです。

固定負債は3,780,026千円となり、前連結会計年度末と比べ268,609千円減少しました。これは主に、長期借入金が255,000千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は6,412,048千円となり、前連結会計年度末に比べ97,356千円増加しました。これは、利益剰余金が96,716千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、36.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月14日の「2022年12月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,217,980	3,649,330
受取手形	36,910	39,343
売掛金	4,341,938	3,984,965
商品及び製品	57,759	56,007
貯蔵品	793	758
前渡金	2,589	8,313
前払費用	48,218	40,938
未収入金	7,313	3,662
未収還付法人税等	105,588	—
その他	480	944
貸倒引当金	△11,817	△10,922
流動資産合計	8,807,757	7,773,342
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	70,634	70,634
工具、器具及び備品	149,020	152,718
減価償却累計額	△165,549	△169,562
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	67,164	66,850
無形固定資産		
のれん	8,919,020	8,771,358
ソフトウェア	191,638	172,994
コンテンツ資産	273,834	268,022
ソフトウェア仮勘定	2,298	189
コンテンツ資産仮勘定	4,319	3,388
著作権	590,000	550,666
その他	1,282	1,270
無形固定資産合計	9,982,395	9,767,890
投資その他の資産		
敷金及び保証金	108,492	108,492
繰延税金資産	54,292	54,292
その他	19,830	18,962
投資その他の資産合計	182,615	181,747
固定資産合計	10,232,175	10,016,488
資産合計	19,039,932	17,789,830

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,310,535	2,867,860
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,020,000	1,020,000
未払金	463,785	365,735
未払費用	34,785	27,829
未払法人税等	496,755	209,327
未払消費税等	166,692	100,700
契約負債	665,215	632,524
返金負債	417,866	250,816
預り金	35,520	87,496
その他	65,447	35,464
流動負債合計	8,676,604	7,597,755
固定負債		
長期借入金	3,825,000	3,570,000
繰延税金負債	223,636	210,026
固定負債合計	4,048,636	3,780,026
負債合計	12,725,240	11,377,781
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,893,301	1,893,621
資本剰余金	1,892,826	1,893,146
利益剰余金	2,885,192	2,981,909
自己株式	△356,628	△356,628
株主資本合計	6,314,691	6,412,048
純資産合計	6,314,691	6,412,048
負債純資産合計	19,039,932	17,789,830

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
売上高	4,673,218	4,675,443
売上原価	2,972,876	3,022,726
売上総利益	1,700,341	1,652,716
販売費及び一般管理費	1,154,333	1,283,022
営業利益	546,008	369,694
営業外収益		
受取利息	11	11
受取返戻金	704	792
その他	438	296
営業外収益合計	1,153	1,099
営業外費用		
支払利息	31,857	13,484
融資手数料	2,400	1,307
その他	10	81
営業外費用合計	34,267	14,872
経常利益	512,893	355,921
特別損失		
損害賠償金	900	—
特別損失合計	900	—
税金等調整前四半期純利益	511,993	355,921
法人税、住民税及び事業税	257,956	187,236
法人税等合計	257,956	187,236
四半期純利益	254,037	168,684
親会社株主に帰属する四半期純利益	254,037	168,684

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	254,037	168,684
四半期包括利益	254,037	168,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	254,037	168,684

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月29日 定時株主総会	普通株式	71,968	12.00	2022年12月31日	2023年3月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	2,837,515	—	2,837,515	—	2,837,515
他社配信	105,459	1,020,426	1,125,885	—	1,125,885
紙出版	—	469,148	469,148	—	469,148
その他	135,056	105,611	240,668	—	240,668
顧客との契約から生じる収益	3,078,030	1,595,187	4,673,218	—	4,673,218
外部顧客への売上高	3,078,030	1,595,187	4,673,218	—	4,673,218
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	42,264	42,264	△42,264	—
計	3,078,030	1,637,452	4,715,483	△42,264	4,673,218
セグメント利益	234,192	311,660	545,852	155	546,008

(注) 1. セグメント利益の調整額155千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	2,904,562	—	2,904,562	—	2,904,562
他社配信	97,091	1,032,830	1,129,922	—	1,129,922
紙出版	—	441,685	441,685	—	441,685
その他	89,917	109,356	199,273	—	199,273
顧客との契約から生じる収益	3,091,571	1,583,872	4,675,443	—	4,675,443
外部顧客への売上高	3,091,571	1,583,872	4,675,443	—	4,675,443
セグメント間の内部売上高 又は振替高	272	34,116	34,389	△34,389	—
計	3,091,843	1,617,988	4,709,832	△34,389	4,675,443
セグメント利益	106,912	262,748	369,661	33	369,694

(注) 1. セグメント利益の調整額33千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。